

24年度第2回臨時理事会議事録

日時 平成24年6月23日 11:00～11:55

会場 都市センターホテル 3F 「コスモスホールⅡ」

出席者

理事長：小西 郁生

副理事長：岡井 崇

理事：岩下 光利、宇田川 康博、海野 信也、大道 正英、片渕 秀隆、嘉村 敏治、
吉川 史隆、田中 憲一、堂地 勉、深谷 孝夫、水沼 英樹、水上 尚典、
峯岸 敬、吉川 裕之、吉村 泰典

監事：岡村 州博、武谷 雄二、和氣 徳夫

第65回学術集会長：櫻木 範明

幹事長：矢野 哲

副幹事長：澤 倫太郎

幹事：上田 豊、梶山 広明、金内 優典、小林 陽一、榊原 秀也、佐藤 豊実、
下平 和久、高倉 聡、多賀谷 光、津田 尚武、増山 寿、山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

専門委員会委員長：青木 陽一

理事会内委員会委員長：竹下 俊行、平松 祐司

名誉会員：神保利春

弁護士：平岩 敬一

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄、小山 圭子

11時00分 理事長、副理事長、常務理事、理事の総数23名のうち、17名が出席し（落合副理事長、木村正理事、工藤美樹理事、上妻志郎理事、小森慎二理事、八重樫伸生理事は欠席）定足数に達したため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、岡村州博監事、武谷雄二監事、和氣徳夫監事の計4名を選任し、これを承認した。

冒頭に小西郁生理事長から6月21日に亡くなられた小森慎二理事の冥福を祈りたいとの発言があった。

I. 業務担当常務理事報告

1) 総務（岩下光利理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向 なし

(2) 運営委員会・若手医師確保ワーキンググループ

第64回日本産科婦人科学会学術講演会に参加した学生・初期研修医に対し、サマースクール参加を促すメールを発信した。

水沼英樹理事「以前に作成した産婦人科のプロモーションビデオは、産婦人科の状況がよく分かってと学生の評判がよい。これのリニューアル版を作る予定はないか。」

平松祐司委員長「足元の医師確保問題だけでなく、産婦人科医の長期的なキャリアアップをWGで検討してはどうかとの意見はあるが、費用もかかることもあり、まだ方向を定められていない。」

岩下光利理事「前回のビデオ作成には500万円かかっており、検討を継続したい。」

(3) 全国各大学の産婦人科教授あてに、若手医師リクルート促進のための「産婦人科キャンペーン強化月間（6月15日～7月14日）のお願い」を送付した。[資料：総務1]

(4) 三宅勝会員から、LCC航空会社に妊婦さんが搭乗する場合の医師の対応について、本会に対する問い合わせを受領した。[資料：総務2]

岩下光利理事「関係する先生方に意見を聞いたが、本件にはさまざまな事例があるので個別に対応することとし、本会として何か方針を出すことはしないとした。」

(5) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

① ホルモン補充療法ガイドライン頒布状況について

6月19日現在、入金済5,612冊、校費支払のため後払希望 3冊。

② 尿由来ゴナドトロピン製剤のプリオン混入に関する三國雅人会員からの再質問について、「現実対応として危険はない」との内容で回答する。

[資料：総務3]

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

① 「婦人科腫瘍登録への参加に関する疫学研究倫理審査申請」に関して、登録参加施設での倫理審査依頼を施設の代表者・実務担当者連名宛に郵送で行った。参考資料として、日本産科婦人科学会臨床研究審査委員会審査時の提出書類、審査承認通知書を学会ホームページ <http://www.jsog.or.jp/>の会員専用ページ「婦人科腫瘍委員会」に設置した。

② 卵巣腫瘍取扱い規約 第1部「組織分類ならびにカラーアトラス」2009年12月（第2版）の P.5 2. UICCのTNM分類 内の記述について、「『T2c：腫瘍の進展が2aまたは2bで、被膜表面への浸潤や被膜破綻が認められたり、腹水または洗浄細胞診で悪性細胞が認められるもの。』とありますが、UICCの原文を見ると『被膜表面への浸潤や被膜破綻が認められたり、』の部分がないのでこの部分の記述は不要ではないでしょうか」との問い合わせが出版元の金原出版に寄せられた。これに対し『被膜表面への浸潤や被膜破綻が認められたり、』の記載はFIGO分類のIIc期にはあるが、UICCのTNM分類にはこの記述がないことを確認し、正誤表を作成し金原出版社ウェブサイトの【正誤表】コーナ (<http://www.kanehara-shuppan.co.jp/seigo/>)にて告知し、加えて、増刷の際には訂正することを金原出版社に依頼した。

嘉村敏治理事「卵巣腫瘍取扱い規約の正誤表については、本会ホームページにも載せて会員に周知したい。」

(ハ) 周産期委員会

海野信也委員長「厚生労働省あてに要望書を出したプロスタグランジン F2 α の添付文書記載の件と

ノボセブンの産科出血への適用拡大の件について同省医薬食品局審査管理課と相談したが、前者は本会の要望通り進めていくように小野薬品と交渉を行っていること、後者についても製薬会社と進め方を検討して行くとのことであった。」

(二) 女性ヘルスケア委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン 2012 発刊関係

6月7日に初校が出たので事務局で確認した後、高松 潔先生に送付し、各作成委員の校閲をお願いしている。

〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1) 内閣府

内閣府犯罪被害者等施策推進室より、「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター開設・運営の手引」とそれへの協力依頼を受領した。[資料：総務4]

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医師会

日本医師会より、母体保護法等に関する検討委員会委員の推薦依頼があり、本会からは松岡 幸一郎先生を推薦した。[資料：総務5]

(2) 日本腹部救急医学会

日本腹部救急医学会より「急性腹症診療ガイドライン」作成のため、本会に対して作成委員会委員2名の推薦と年間50～100万円の協賛金拠出を依頼してきた。

本会からは、副委員長候補として西井 修先生(帝京大学溝口病院)、委員候補として板倉 敦夫先生(埼玉医科大学)と藤原 道久先生(川崎医科大学)を推薦したい。

なお本会としては、「本件に協力し、委員を出すとともに名前も連ねる。ただし、旅費などは各学会の負担として協力金をできるだけ抑制すること、および販売後の収入は各学会に配分することを主張する」方針で臨みたい。[資料：総務6]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認した。

(3) 日本家族計画協会

日本家族計画協会機関誌「家族と健康」が700号記念号を発刊する際に支援団体として本会の名前を掲載する許可を求めてきた。掲載料等は不要であり、これを応諾した。[資料：総務7]

(4) 日本助産師会

日本助産師会から推薦依頼のあった助産業務ガイドライン改訂特別委員会への本会委員について、周産期委員会からの推薦を受け、浜松医科大学伊東宏晃先生を推薦したい。

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認した。

〔Ⅳ. その他〕

(1) 勤務医労働実態調査 2012 実行委員会からアンケート調査への協力依頼を受領した。本件については謝絶方針で対応したい。[資料：総務8]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認した。

(2) 出産直後のカンガルーケア・完全母乳等により脳障害を受けた新生児を抱える患者・家族の会からの提言を受領した。〔資料：総務9〕

岡井崇副理事長「カンガルーケアについては現実の問題点も出てきており、本会としても現状について会員に周知した方がよいのではないか。」

海野信也理事「小児科側の未熟児新生児学会でもこれを問題視しているが、新生児が生まれるのは産科であるので、産科側の対応を決めておくことは大事だと考える。」

岩下光利理事「医療安全推進委員会と周産期委員会で対応をお願いしたい。」

(3) 2012年11月2～4日に大阪国際交流センターで開催される、第8回アジアパシフィック母体胎児医学会より後援名義使用依頼を受領した。経済的な負担はなく、これを応諾したい。

(4) 日本対がん協会より、子宮頸がん啓発事業（2012年6月～2013年3月）への後援依頼を受領した。経済的な負担はなく、これを応諾したい。

2) 会 計 (岡井 崇副理事長) 特になし

3) 学 術 (峯岸 敬理事)

(1) 学術委員会

(イ) 平成24年度日本医師会医学研究奨励賞について

峯岸敬委員長「4名の推薦があったが、学術委員会内小委員会で検討の結果、東京大学の川名敬先生を推薦させていただいた。」

(2) プログラム委員会関連 特になし

4) 編 集 (上妻志郎理事欠席につき山下隆博主務幹事)

(1) 会議開催

平成24年度第1回編集担当理事会を6月8日に開催した。

和文機関誌のオンラインジャーナル化の閲覧形式等に関し、編集担当理事の先生に説明し同意を得た。

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況：2012年投稿分 (5月31日現在)

投稿数 460 編 (うち Accept 27 編 Reject 222 編 Withdrawn/Unsubmitted 85 編 Under Revision 38 編、Under Review 88 編、Pending 0 編、Expired 0 編)

5) 渉 外 (木村 正理事欠席につき上田豊主務幹事)

[FIGO 関係]

(1) ローマでの FIGO World Congress 前日の10月5、6日に Women's Health に関するプレコングレスが開催される。〔資料：渉外1〕

[KSOG 関係]

- (1) KSOG より依頼のあった、日本の産科医療危機への対応についての韓国新聞社同行の取材が9月11～13日に行われることになった。

[その他]

- (1) カンボジア産婦人科学会との交流提携に関する調査の為、7月に木村正渉外担当常務理事と上田豊主務幹事が7月にカンボジアを訪問の予定である。

6) 社 保 (吉川裕之理事)

(1) 会議開催

- ①7月27日常務理事会前、第3回婦人科内視鏡悪性腫瘍手術に関する関連団体協議会を開催の予定である。
②7月27日常務理事会後、第2回社保委員会を開催の予定である。

- (2) 平成24年度診療報酬改定による腹腔鏡を用いた手術の施設基準届出について本会より厚労省へ要望したところ、平成24年6月30日までに届け出た場合には、平成24年4月1日に遡っての算定が可能となった。 [資料：社保1]

7) 専門医制度 (吉川史隆理事)

(1) 会議開催

第2回中央委員会と全国地方委員長会議を6月30日に開催する予定である。

(2) 日本専門医制評価・認定機構

①厚生労働省から同機構に、専門医のあり方に関して基本領域学会との意見交換を行いたいとの申し入れがあり、本会からは小西郁生理事長、吉川史隆専門医制度委員長が出席するように調整を行っている。 [資料：専門医1]

②同機構から日本婦人科腫瘍学会に対して専門医制度についてのヒアリングがあり、婦人科腫瘍専門医に関して、大枠では問題ないものの何点かの指摘があった。 [資料：専門医2]

吉川史隆理事「医療安全、医療倫理に関する教育について、本会専門医の教育との整合性を取るようにとのことである。サブスペシャリティ学会と単位を互換できるようにしたい。」

岩下光利理事「近いうちにサブスペシャリティ学会との打合せ会を開催する予定である。」

8) 倫理委員会 (落合和徳委員長欠席につき榊原秀也主務幹事)

(1) 本会の見解に基づく諸登録 (平成24年5月31日)

- ①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：43 研究
②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：569 施設
③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：569 施設
④顕微授精に関する登録：506 施設
⑤非配偶者間人工授精に関する登録：15 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について [資料：倫理1]

6月18日現在申請277例 [承認239例、非承認4例、審査対象外17例、取り下げ1例、照会10例、審査中6例] (承認239例のうち7例は条件付)

(3) 会議開催

- ①「第4回『生殖医療に関する遺伝カウンセリング受け入れ可能な臨床遺伝専門医』認定講習

- 会」を7月16日に開催する。
- ②「平成24年度第1回着床前診断に関する審査小委員会」の集合会議を7月20日に開催する予定である。
- ③「平成24年度第1回倫理委員会」を7月31日に開催する予定である。

9) 教育 (八重樫伸生理事欠席につき小西郁生理事長)

(1) 会議開催

第65回日本産科婦人科学会時「第5回若手医師による企画」委員打合会を6月29日、ならびに7月27日に開催する予定である。

(2) 「産婦人科研修の必修知識2011」頒布状況について

6月19日現在、入金済5,776冊、校費支払のため後払希望42冊。

(3) 用語集・用語解説集の発刊ならびに電子化について

①用語集・用語解説集改訂版については、6月9日の第1回理事会において承認を頂けたので改訂作業に着手する。

②6月8日開催の第1回教育委員会・若手育成委員会合同委員会の際に用語集電子版のデモンストレーションを行い、出席委員からも了承を得られたので、今後具体的に発刊作業を進めていく。なお、電子版については、産婦人科研修の必修知識電子版からも検索をかけられるシステムを考慮している。

(4) 西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部産婦人科医育成奨学基金応募ならびに報告文書について

今年からは応募の際、また、報告文書を作成する際に必ず給付開始された時点で所属している大学の産婦人科教授のサインを必須とし、奨学金受給者と産婦人科教授が話をすることができるシステムとする。

10) 地方連絡委員会 (落合和徳委員長) 特になし

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (嘉村敏治委員長)

(1) 会議開催

7月26日第1回広報委員会を開催の予定である。

2) 未来ビジョン委員会 (吉村泰典委員長) 特になし

3) 震災対策・復興委員会 (岡井 崇委員長) 特になし

4) 診療ガイドライン委員会 (吉川裕之学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

①「産婦人科診療ガイドライン—産科編2008」頒布状況について

- 6月19日現在、入金済11,966冊、後払希望0冊。
- ②「産婦人科診療ガイドライン—産科編2011」頒布状況について
6月19日現在、入金済12,494冊、後払希望98冊。
- ③会議開催
・平成24年度第1回作成委員会を7月18日に開催する予定である。

(2)産科編評価委員会（海野信也委員長） 特になし

(3)婦人科外来編委員会（八重樫伸生委員長）

- ①「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編2011」頒布状況について
6月19日現在、入金済10,651冊、後払希望32冊。
- ②会議開催
・平成24年度第1回作成委員会を6月30日に開催する予定である。

(4)婦人科外来編評価委員会（峯岸 敬委員長） 特になし

5)コンプライアンス委員会（平松祐司委員長）

(1)利益相反調査の方法について [資料：コンプライアンス1]

平松祐司委員長「COI申告書のうち役員分はコンプライアンス委員会から理事長に自動的に報告するが、ガイドライン委員分については同委員長に自動的に報告することにしたい。」
本件につき特に異議はなく、全会一致で承認した。

6)医療改革委員会（海野信也委員長）

(1)第6回「大学病院産婦人科勤務医の待遇改善策の現況に関するアンケート調査」についての依頼書面とアンケート用紙を7月中に送付予定である。[資料：医療改革1]

水沼英樹理事「このアンケートは産婦人科教授あてになっているが、同じものを病院長や総務部長に送って、現場と大学管理者との意見の乖離を調査することを検討できないか。」

海野信也委員長「アンケート結果は病院長などに送っているが、アンケート対象とするには事務量が大きくなるため、ハードルが高い。」

(2)第5回「産婦人科動向意識調査」、「産婦人科研修プログラム等に関する調査」「地域における血液製剤供給体制の問題点に関する調査」（7月30日締切）を実施する。

[資料：医療改革2]

(3)各都道府県別の新入会員数について [資料：医療改革3]

海野信也委員長「平成22年度から23年度にかけて東北、四国、近畿、中国で新入会員が減っている。これらを参考に今後、各地域での対策を検討いただければと思う。」

片渕秀隆理事「これに加えて転入転出を調べると、全国の会員移動がわかるのではないか。」

海野信也委員長「検討したい。」

海野信也委員長「来年度予算について、厚生労働省としては産科医等確保育成支援事業について全力を挙げて項目を残すようにしたいとのことであった。しかしこの事業は、250億円の予算がある医療提供体制推進事業の中の20数項目のひとつであり、都道府県がその枠のなかで裁量することになっているため、各都道府県の担当者に周産期医療センターへの補助を含めて産科医等に係る補助金事業の方針を確認する必要がある。これを本会の地方連絡委員に連絡するようにしたい。」

7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会（竹下俊行委員長）

(1) 会議開催

①7月18日、第1回男女共同参画・女性の健康週間委員会を開催の予定である。

(2) 地方学会担当公開講座について [資料：男女共同参画1]

竹下俊行委員長「これへの補助金は一学会あたり10万円を一律に支給することとした。」

8) 若手育成委員会（齋藤 滋委員長欠席につき金内優典主務幹事）

(1) 第6回産婦人科サマースクールについて [資料：若手育成1]

①応募状況

②寄附金関係現状報告

③6月20日金内優典主務幹事ならびに西井 修委員がホテルメトロポリタン盛岡ニューウィングの会場下見を行った。

(2) 第7回産婦人科サマースクールについて

すでに報告済みであるが、第7回産婦人科サマースクールは平成25年8月3日4日の二日間にわたり長野県・ホテル翔峰において開催の予定であり本契約の予定である。

9) 臨床研究審査委員会（水沼英樹委員長）

(1) 埼玉医科大学の石原理先生から審査申請のあった研究課題「凍結胚盤胞 SET による周産期予後改善可能性の検討」について、臨床研究審査委員会の諮問をもとに本会として承認の回答を行った。 [資料：臨床審査1]

10) 医療安全推進委員会（岡井 崇委員長） 特になし

III. 平成24年度定時総会運営について

(1) 代議員からの質問・要望事項

本総会の各議案に対する代議員からの質問・要望事項はなかった。

IV. その他

田中憲一理事「先進医療の委員をしているが、ダビンチを使った1Aの子宮体癌治療の申請が出て来た。先進医療には近い将来保険診療になることを想定してそれに合うものが求められる。現状では前立腺がんのみ認められているが、ダビンチは難度の高い疾患に使うべきであるなど学会で整合性を取るようお願いしたい。他学会では学会内に先進医療・高度医療についての委員会を設置して考え方を示しているところもあるようだ。」

小西郁生理事長「婦人科内視鏡悪性腫瘍手術に関する関連団体協議会および社保で引き続き検討していただきたい。」

岡井崇副理事長「従前より産科と小児科の合同委員会を作って互いに連絡を取ってきたが、小児科側は小児科学会が委員を選んできたが、産科側は周産期委員会が選んできた。学会としての対応が必要なケースもあり、産科側委員も周産期委員会委員から本会が選ぶことにしたい。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認した。

岩下光利理事「小森慎二理事のご逝去に伴い欠員となった近畿ブロックからの理事について、同ブロックから後任理事の推薦があった場合は、9月1日の第2回理事会終了後に第2回臨時総会を開

催して選任することとしたい。」
本件につき特に異議はなく、全会一致で承認した。

以上